

# 夏号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所  
 連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17  
 TEL 924-2194 FAX 924-2195

## ◆みどりの教室◆

会場：21世紀記念公園  
 とんがりふれあい館ホール

参加費：無料

内容：

### ①季節の寄せ植え

日時：8月23日(日)10:00～12:00  
 定員：先着7名  
 申込期間：8/4(火)9:00～8/13(木)17:00

### ②リースづくり

日時：9月6日(日)  
 10:00～12:00、14:00～16:00  
 定員：先着各7名  
 申込期間：8/14(金)9:00～8/23(日)17:00

※当日検温とマスクの着用をお願いいたします。

申込先：21世紀記念公園

TEL 924-2194 / FAX 924-2195

## My ガーデニング

・・・季節のワンポイントアドバイス

### 【水やり】

今年の夏は、例年に増して暑いとされています。植物にとっても夏越しが大変になります。特に今春以降に植え替えられたものは、なおさらです。水やりが特に難しくなる時期です。あげる時間帯は朝が向いています。特に乾燥が激しいときには、夕方にもあげるようにします。日中の時間帯は避けてください。しっかりと水分が根まで届くようにしないと効果はありません。芝生も同じです。樹冠から全体に水をあげるようにします。乾燥、雑草などを抑える為に、腐葉土などでマルチング(土壌表面を被う)をすると効果があります。鉢植えの植物があると、遠方へ出かけることもできなくなりますね。私たちののが渴くのと同時に植物も水分を必要とします。最初は葉がしおれ、そのSOSに気づかずにいると、大事な植物を枯らしてしまいます。時々雨が降ってくれることを願うだけです。その植物によって、乾燥に対する強弱があります。ツツジ類のように根が浅いものは、最初にしおれ始めます。



### 【植替え】

これからの時期は、どの植物も植え替えに適しません。常緑樹は、秋の彼岸ごろまで待ちます。落葉樹は、10月末から行えます。鉢植えの場合も、庭に植えこむのは避けたほうが無難です。ただし、これから咲き始めるサルスベリは、一番の植え替え時期は春の新芽がうごき始める時ですが、花が咲いているこの時期でもしっかりと水の管理が出来ると活着率が良いです。秋遅くに行くと、来春に新芽が吹き出さないで枯れてしまいやすいです。サルスベリのように春先の新芽が吹き出すのが遅い熱帯性の植物のせいかもしれません。

### 【肥料】

暑さにむかっていく、この時期の肥料は、かえって植物を弱らせてしまいます。一般的にはあげませんが、開花後の植物は樹勢回復のため、少量の緩効性肥料をあげます。一、二年草の草花をはじめ、ランなどは、薄めの液体肥料をあげるようにします。薄めにするのは根を傷めないようにするためです。

**【病害虫】**

病気は予防、害虫は早期の退治が基本です。

バラ、カエデ類、ハナミズキなどにできる“うどんこ病”も毎年長い期間発生し、防除が厄介な病気です。葉が白く粉をふいたようになっていきます。この病気は、発生する時期がほとんど決まっているので、その前に定期的な薬剤の散布をし、発生を抑えることが肝心です。病気が現れてしまうと、その病徴（葉が白くなった状態）を修復する事は難しいです。薬剤は新薬のほうが値段は高いですが効果もあるようです。薬液は樹木全体に、まんべんなく散布しないと効果はありません。バラの**黒星病**も同じ薬剤で効果があります。**アメリカシロヒトリ**も幼虫が発生しはじめました。広がらないうちに退治することで大きな被害を防ぐ事ができます。そして8月頃の二回目の発生も少なくできます。サルスベリも花が咲きだしますが、**アブラムシ**や**カイガラムシ**の被害も顕著になります。その後には、**すす病**が発生し、ひどい状態になってしまいます。幹にアリが上っているときにはすでにアブラムシが発生している可能性が高いです。カエデ類をはじめ多くの樹木に被害をだし、時には枯らしてしまうこともある**カミキリムシ**も成虫が飛び回っています。これは捕殺しかありません。幹の中にもぐって被害を出す穿孔性害虫は全てカミキリムシのように感じますがガの幼虫も同じような行動をしています。どちらも防除が難しいです。**イラガ**も、これから発生し始めます。葉の裏に付いて葉脈を残して食べつくしてしまいます。この害虫の怖いところは、刺されるとひどいかゆみが出ることです。多くの広葉樹に発生します。マツやトウヒなどの針葉樹には**マツカレハ**が成虫になります。そして、産卵し、秋にはその次の幼虫が生まれます。この虫も触ると炎症をおこします。これからの時期は、多くの病害虫が発生しますが、薬剤を上手に使って防除するわけですが、用法容量は決められたとおり使用します。発生を抑えるには、植物を元気に育てて、ストレスを解消与えないことが大事になります。それは、剪定の良し悪しも含まれます。風通しを良くするつもりが、マイナスに働いている場合も多々あります。

**【剪定】**

常緑広葉樹や針葉樹はこの時期でも切りすぎなければ大丈夫です。落葉樹は伸びすぎた枝を切り詰める程度にします。切りすぎないとは、葉が極端に少なくなるほどの剪定をしないことです。この暑い時期に葉が少なくなると、強い直射日光で枯れてしまうこともあります。庭をさっぱりさせたいと思う気持ちも理解できますが、植物は生き物です。何故にこの時期に葉を茂らせるのかを考えてみて下さい。もし少しでもさっぱりさせたいと思うなら先端を切り詰めるだけではなく、幹に近い内側の部分の枝を整理すると、すっきりした樹形にすることができます。風通しを良くすると病害虫防除にも効果があります。このからの台風シーズンにも倒木や枝折れを防げます。

**《ポタンの剪定》**

牡丹は9月になったら葉をすべて切り落とします。寒牡丹の場合は8月中に行います。葉を茂らせているこの時期にと疑問に思うかもしれませんが、そのことで休眠打破がおきて、来春に向けて蕾の成長が始まります。やってみてください。

**【身近な植物の紹介】****クチナシ**

公園内にも白い花が甘い香りを放ちながら咲いています。ただ、この品種はコクチナシで地面に這うように育つ近縁種の低木です。一重咲きで大きな花をつけるのがクチナシです。クチナシの場合は秋に実をつけ、染料や薬に利用されます。八重咲きのオオヤエクチナシは、実をつけません。クチナシの仲間にはアゲハチョウの幼虫がいると勘違いしますが、実際はオオスカシバの幼虫です。葉をすべて食い尽くしてしまうこともあります。挿し木で簡単に殖やすことができます。